

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 10 月 5 日 (2017.10.5)

【公表番号】特表 2016-501197 (P2016-501197A)

【公表日】平成 28 年 1 月 18 日 (2016.1.18)

【年通号数】公開・登録公報 2016-004

【出願番号】特願 2015-542359 (P2015-542359)

【国際特許分類】

A 0 1 N 25/00 (2006.01)

A 0 1 N 51/00 (2006.01)

A 0 1 P 7/04 (2006.01)

C 0 7 C 69/58 (2006.01)

C 0 7 C 67/08 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 25/00 1 0 1

A 0 1 N 51/00

A 0 1 P 7/04

C 0 7 C 69/58

C 0 7 C 67/08

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 29 年 8 月 24 日 (2017.8.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

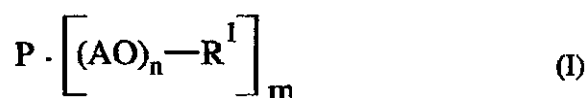
【0 0 1 1】

本発明の第一の観点によれば；

i) 少なくとも 1 つの浸透剤；及び

ii) 少なくとも 1 つの農薬活性を含む農薬製剤が提供され、ここで浸透剤は、ポリオールアルコキシレートを直接エステル化及び／またはエーテル化することにより得られるエステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートであり、ここで前記エステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートは、一般構造式 (I)：

【化 1】



(式中：

P は、ポリオールの残基であり、前記ポリオールは、m 個の活性水素原子を有し、ここで m は、2 ～ 9 の範囲の整数であり；

AO は、オキシアルキレン基であり；

それぞれ n は、独立して 1 ～ 100 の範囲の整数を表し；

n と m を乗算した値は、10 ～ 300 であり；

それぞれ R¹ は、独立して水素、C₁ ～ C₂₈ ヒドロカルビル、または -C(O)R² により表

されるアルカノイル基（式中、 R^2 は、 $C_1 \sim C_{28}$ ヒドロカルビルを表す）を表し；そして式中、少なくとも1つの R^1 基は、 $C_8 \sim C_{28}$ ヒドロカルビルであるか、または $C_8 \sim C_{28}$ ヒドロカルビルを含む）を有する。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

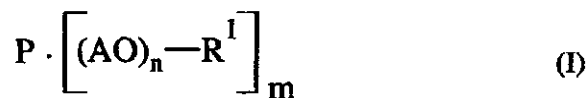
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

本発明の第三の観点によれば、浸透剤としてのエステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートの、農薬製剤における使用が提供され、ここで前記エステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートは、ポリオールアルコキシレートを直接エステル化及び／またはエーテル化することにより得ることができ、またここで前記エステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートは、一般構造式（I）：

【化2】



（式中：

Pは、ポリオールの残基であり、前記ポリオールは、m個の活性水素原子を有し、ここでmは、2～9の範囲の整数であり；

AOは、オキシアルキレン基であり；

それぞれnは、独立して1～100の範囲の整数を表し；

nとmを乗算した値は、10～250であり；

それぞれ R^1 は、独立して水素、 $C_1 \sim C_{28}$ ヒドロカルビル、 $-C(O)R^2$ により表されるアルカノイル基（式中 R^2 は、 $C_1 \sim C_{28}$ ヒドロカルビルを表す）を表し；そして式中少なくとも1つの R^1 基は、 $C_8 \sim C_{28}$ ヒドロカルビルを含む）を有する。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0043

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0043】

nとmを乗算した値は、1～300である。好適には、20～200である。より好適には、30～160である。さらに好適には、40～140である、最も好適には、50～130である。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

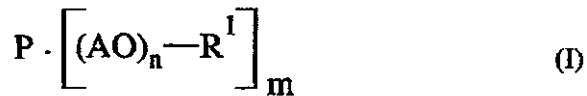
i) 少なくとも1つの浸透剤；及び

ii) 少なくとも1つの農薬活性を含む農薬製剤であって、

ここで前記浸透剤が、ポリオールアルコキシレートを直接エステル化及び／またはエーテル化することにより得られるエステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシ

レートであって、前記エステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートが、一般構造式（Ⅰ）：

【化 1】



（式中：

P は、ポリオールの残基であり、前記ポリオールは、m 個の活性水素原子を有し、m は 2 ～ 9 である整数であり；

AO は、オキシアルキレン基であり；

それぞれ n は、独立して 1 ～ 100 である整数を表し；

n と m を乗算した値は、30 ～ 160 であり；

それぞれ R¹ は、独立して、ミリストレイン酸、パルミトレイン酸、サビエン酸、オレイン酸、エライジン酸、パクセン酸、リノール酸、リノエライジン酸、 γ -リノレン酸、アラキドン酸、エイコサペンタエン酸、エルカ酸、またはドコサヘキサエン酸から選択される脂肪酸の残基であるアルカノイル基を表す）を有し、

前記浸透剤の分子量（重量平均）は、2，200 ～ 5，500 であり、

活性ヒドロキシル基の数（m）に対する、浸透剤中に存在するオキシアルキレン基の比率は、10 ～ 30：1 である、前記農薬製剤。

【請求項 2】

前記ポリオール残基が、C₂ ～ C₁₂ ポリオール残基である、請求項 1 に記載された製剤。

【請求項 3】

前記 m の活性水素原子の値が、3 ～ 7 である、請求項 1 または 2 に記載された製剤。

【請求項 4】

前記ポリオールが、エチレングリコール、イソソルビド、1，3 - プロパンジオール、トリメチロールプロパン、グリセロール、エリトリトール、トレイトール、ペンタエリトリトール、ソルビタン、アラビトール、キシリトール、リビトール、フシトール、マンニトール、ソルビトール、ガラクトール、イジトール、イノシトール、ボレミトール、イソマルト、マルクトール、またはラクチトールから選択される、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載された製剤。

【請求項 5】

前記ポリオールが、トリメチロールプロパン、ソルビトール、またはソルビタンから選択される、請求項 4 に記載された製剤。

【請求項 6】

前記オキシアルキレン基 AO が、オキシエチレン、オキシプロピレン、オキシブチレン、またはオキシテトラメチレンから選択される、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載された製剤。

【請求項 7】

前記それぞれのオキシアルキレン鎖中のオキシアルキレン基の数が、2 ～ 80 個の範囲内である、請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載された製剤。

【請求項 8】

前記浸透剤が、ポリオキシエチレン（64）トリメチロールプロパントリオレエート、ポリオキシエチレン（40）ソルビトールヘキサオレエート、ポリオキシエチレン（50）ソルビトールヘキサオレエート、ポリオキシエチレン（40）ソルビタンモノオレエート、ポリオキシエチレン（50）ソルビタンモノオレエート、またはポリオキシエチレン

(6 5) ソルビタンモノオレエートから選択される、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載された製剤。

【請求項 9】

前記浸透剤が、ポリオールアルコキシレートを直接エステル化及び／またはエーテル化することにより得られる、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載された製剤。

【請求項 10】

前記製剤が、乳化可能な濃縮物 (E C)、エマルジョン濃縮物 (E W)、懸濁濃縮物 (S C)、溶解性の液体 (S L)、油を基剤とする懸濁濃縮物 (O D)、またはサスポエマルジョン (S E) の形態にある、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載された製剤。

【請求項 11】

前記農薬製剤中の浸透剤対活性農薬の比率が、0 . 1 : 1 ~ 1 : 1 である、請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項に記載された製剤。

【請求項 12】

請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 項に記載された製剤を作る方法であって；

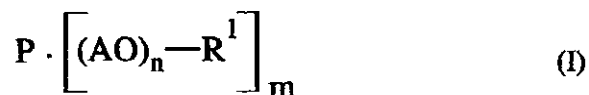
ポリオールアルコキシレートを形成するための、ポリオールのアルコキシル化を含む第一のステップ；及び

エステル化またはエーテル化ポリオールアルコキシレートを形成するための、前記第一のステップにおいて形成された前記ポリオールアルコキシレートのエステル化またはエーテル化を含む第二のステップ、を含む方法。

【請求項 13】

農薬製剤におけるエステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートの浸透剤としての使用であって、前記エステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートが、ポリオールアルコキシレートを直接エステル化及び／またはエーテル化することにより得ることができ、また前記エステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートが、一般式 (I) ；

【化 2】



(式中 ；

P は、ポリオールの残基であり、前記ポリオールは、m 個の活性水素原子を有し、m は 2 ~ 9 である整数であり；

AO は、オキシアルキレン基であり；

それぞれ n は、独立して 1 ~ 10 である整数を表し；

n と m を乗算した値は、30 ~ 160 であり；

それぞれ R¹ は、独立して、ミリストレイン酸、パルミトレイン酸、サビエン酸、オレイン酸、エライジン酸、パクセン酸、リノール酸、リノエライジン酸、 γ -リノレン酸、アラキドン酸、エイコサペンタエン酸、エルカ酸、またはドコサヘキサエン酸から選択される脂肪酸の残基であるアルカノイル基を表す) を有し、

前記浸透剤の分子量 (重量平均) は、2 , 200 ~ 5 , 500 であり、

活性ヒドロキシル基の数 (m) に対する、浸透剤中に存在するオキシアルキレン基の比率は、10 ~ 30 : 1 である、前記エステル化及び／またはエーテル化ポリオールアルコキシレートの使用。

【請求項 14】

害虫を防除するために植生を処置するための方法であって、請求項 1 ~ 11 のいずれか 1 項に記載された製剤を希釈し、前記植生、または前記植生の周囲の環境のいずれかに施用することを含む方法。